

日本医学会だより

JAMS News

2003年10月 No. 30

日本医学会

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

日本医師会館内 TEL. 03-3946-2121(代)

第124回日本医学会シンポジウム

2003年8月29日～8月31日、パレスホテル箱根において「肥満の科学」が開催された。組織委員は、松澤佑次（住友病院長）、中尾一和（京大院・内分泌代謝内科）、永井良三（東大附属病院長・循環器内科）、門脇孝（東大院・糖尿病・代謝内科）の各氏であった。

プログラムは、I. 肥満のインパクト、II. 肥満のメカニズム、III. 脂肪細胞のバイオリジー、IV. 肥満治療のサイエンスの4部をもって構成された。

シンポジウムの詳細は、記録集として2003年2月頃に刊行される予定である。希望者は、日本医学会宛、郵便はがきで申し込またい(無料)。

第125回日本医学会シンポジウム

2003年12月11日(木)10:00～17:15、日本医師会館において「アルツハイマー病」をテーマに第125回シンポジウムが開催される。組織委員は、金澤一郎、井原康夫、朝田隆の各氏。参加希望者は、日本医学会に郵便はがきで申し込またい。参加費無料。

プログラムの概要は下記のとおり。

I. 臨床の話題

1. アルツハイマー病の疫学/浦上克哉（鳥取大・生体制御）
2. 脳機能画像の診断的意義/松田博史（国立精神・神経センター武蔵病院）
3. 軽度認知機能障害（Mild cognitive impair-

ment）と痴呆症の早期診断/荒井啓行（東北大院・先進漢方治療医学）

II. 基礎の話題

1. γ セクレターゼ：最近の進歩/岩坪威（東京大院・薬・臨床薬学）
2. A β 重合のはじまり/柳澤勝彦（国立長寿医療研究センター）
3. 神経原線維変化と痴呆/高島明彦（理研・脳科学総合研究センター）

III. 治療と介護の進歩

1. ドネベジル治療効果の予測/羽生春夫（東京医大・老年病科）
2. ワクチン療法 updated/田平武（国立長寿医療研究センター）
3. セクレターゼ阻害剤の開発について/木曾良明（京都薬大・創薬科学フロンティア研究センター）
4. 患者・家族が医師に求めるもの—家族の会の活動から—/三宅貴夫（社）呆け老人をかかえる家族の会）

医学賞・医学研究助成費の決定

医学賞・医学研究助成費選考委員会が去る9月3日に開催され、平成15年度の受賞者・受領者が決定した。授与式は11月1日の第56回日本医師会設立記念医学大会に際してとり行われる。

本選考は、日本医学会が日本医師会から委任されているもので、今年度の応募件数は医学賞20件、医学研究助成費41件であった。選考の結

果は下記のとおりである。

〈日本医師会医学賞〉

- ・体内時計の分子機構に関する研究/岡村 均 (神戸大院・分子脳科学)
- ・動脈硬化の分子機構の解明とその成果の臨床応用/北 徹 (京大院・内科学)
- ・末期重症心不全患者救命のための補助人工心臓の実用化に関する基礎的研究及び臨床応用/高野久輝(国立循環器病センター研・人工臓器・医用工学)

〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・p21 (WAF1/Cip1) による中枢神経軸索再生への試み/山下俊英(阪大院・ポストゲノム疾患解析学)
- ・成人発症II型シトルリン血症発症機序の解明と治療法の開発/佐伯武頼(鹿児島大院・分子病態生化学)
- ・慢性骨髄性白血病トランスジェニックモデルを用いた新たな病進展関連遺伝子の単離と解析/本田浩章(広島大原爆放医研・放射線再生医学)
- ・高密度ゲノムアレイの開発と難治性疾患の病態解明/稲澤譲治(医歯大難治研・分子細胞遺伝学)
- ・無精子症におけるStAR蛋白質結合蛋白質(StAR-Binding-Protein, SBP)の役割の解明/菅原照夫(北大院・分子生化学)
- ・ヘリコバクター・ピロリ感染が胃がん頻度の地域差に与える影響についての研究/田邊直仁(新潟大・地域予防医学)
- ・加齢黄斑変性症の罹患率と生活習慣ならびに遺伝子多型の研究/寺崎浩子(名大院・感覚器障害制御学)
- ・冠インターベンション後再狭窄に対する新規

遺伝子治療・分子治療の探索研究とその臨床応用/江頭健輔(九大・循環器内科学)

- ・腸管粘膜免疫および分化再生機構の特殊性を応用した炎症性腸疾患に対する画期的治療法開発/渡辺 守(医歯大院・消化・代謝内科学)
- ・糖尿病性腎症に対する遺伝子医薬の開発に関する研究/古家大祐(滋賀医大・内科学)
- ・遺伝性脱髄疾患の抗アポトーシス蛋白を用いた治療法の開発/大橋十也(慈恵大DNA研・遺伝子治療)
- ・腫瘍細胞の抗がん剤に対する耐性獲得機構の解明—Gastrointestinal Stromal Tumorsにおける分子標的治療薬(STI 571)をモデルとして/西田俊朗(阪大院・臓器制御外科学)
- ・疾患感受性遺伝子解析を用いたステロイド性大腿骨頭壊死に対する予防法の確立/久保俊一(京府医大院・運動器機能再生外科学)
- ・特発性黄斑円孔の病態に関する基礎的研究/池田恒彦(阪医大・眼科学)
- ・慢性閉塞性肺疾患モデルを利用した吸入麻酔薬の気道平滑筋弛緩作用の解明/山藤道明(札幌医大・麻酔学)

認定医制についての三者懇談会

第27回認定医制についての三者懇談会が6月3日に開催され、そこで専門医認定制協議会から中間法人日本専門医認定制機構に組織変えが行われたことの報告があった。

専門医・認定医の三者承認、すなわち日本医師会、専門医認定制協議会、日本医学会がこれまで行ってきた三者承認の継続性の是非が討議され、協議会が十分に成長して機構になったものとして、今後は機構承認をもって三者承認に代えることになった。

三者懇談会は継続し、広く専門医制について論議を行う。